

JAアルプス「ハトムギ」栽培こよみ

アルプス農業協同組合・富山農林振興センター 令和3年4月改定

月 旬	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月				
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
主な 作業	①圃場準備 額縁排水溝の設置 			②土壌改良資材散布	③種子消毒	④耕起・砕土 ⑤播種・施肥 ⑥播種時除草剤散布 播種作業 (5月下旬～6月20日まで)			⑦病虫害防除 1回目 播種後25日頃 2回目 1回目の15日後頃			⑨高温乾燥時の畦間かん水 (7月中旬～9月上旬の間、随時) 			⑩収穫 播種後120～130日頃(出穂後60日頃) 			⑪収穫後の圃場の管理 フレールモアで刈株を裁断			⑫次年度の作付け準備 額縁排水溝の設置		
	圃場を乾かし耕起・砕土の準備					⑧生育期の除草 1)中耕培土 1回目 播種後25日頃 2回目 1回目の10日後頃 2)除草剤散布 (必要に応じて)			水不足で萎れる前に畦間かん水			コンバインで収穫											

品 種 : あきしずく
播種時期 : 5月下旬～6月20日(厳守)

<播種前>

【①圃場準備】

○連作を避けて作付け圃場をローテーションさせる。

薬剤名	適用雑草	10a当り薬量/ 使用水量	使用時期 使用方法	使用回数
ラウンドアップ マックスロード	1年生雑草	500ml/ 100%	耕起前又は播種前 (雑草生育期) 雑草茎葉散布	2

ハトムギ栽培のポイント

○額縁排水溝と基幹排水溝を早めに設置し土壌を乾かす。
・湿害を防ぎ発芽率を向上する。
・砕土率を高め除草剤の効果を高める。

【②土壌改良資材散布】

○耕起前に石灰質資材を散布する。
粒状貝化石 150kg/10a

【③種子消毒】

○「葉枯病」や「黒穂病」の種子伝染を防ぐため必ず実施する。

10a当り種子量3kg + $\left\{ \begin{array}{l} \text{ベンレート水和剤} 20 \text{ 75g} \\ + \\ \text{水} 15\text{L} \end{array} \right.$

72時間(3日間)浸漬する。浸漬終了後2日以内に播種する。

消毒終了後発芽しないように、よく水を切り風乾する。

浸種が長い場合や、水切りが不十分な場合は、出芽し播種作業に支障が出る。



<播種作業>

【④耕起・砕土】

○土壌が乾いた状態でゆっくり起こし、砕土率を高める。

【⑤播種・施肥】

○播種 播種時に、播種量、施肥量、播種深度を確認する。
・播種時期 5月下旬～6月20日まで
・播種量

播種時期	種子量
5月下旬～6月9日	3kg/10a
6月10日～20日	4kg/10a

・播種深度 3～4cm

○施肥量(側条施肥)

LPIはとむぎ専用 40～50kg/10a

【⑥除草剤散布】

○播種後ただちに除草剤を散布する。

薬剤名 (使用回数)	適用雑草 (使用時期)	薬量 希釈水量
サターンバロ乳剤	水田1年雑草	500ml/10a
+	+	+
ゲザプリムフロアブル	畑地1年雑草	200ml/10a
栽培期間中1回のみ	播種直後～出芽前 (雑草発生前)まで	10aあたり100L散布 (2剤混合散布)

<栽培管理>

【⑦病虫害防除】

薬剤名	1回目(播種後25日頃)			2回目(1回目防除後15日頃)		
	薬剤名	倍率 (倍)	必要 薬量※1	薬剤名	倍率 (倍)	必要 薬量※1
パダンSG水溶剤 (収穫14日前まで) + ロブラール水和剤 (収穫21日前まで)	1,500	100g	150g	パダンSG水溶剤 (収穫14日前まで)	1,500	100g
対象 病虫害	アワノメイガ、葉枯病※2			アワノメイガ		
散布量 /10a	(2剤混合して)150L			150L		

※1 10a当り150L散布の場合

※2 1回目防除後、葉枯病が発生した場合はロブラール水和剤を追加で随時防除

・薬剤散布の際は、必ず展着剤を加用する。

【⑧生育期の除草】

○播種時に散布した除草剤は2～3週間で効果が切れるため、雑草が大きくなる前に中耕除草する。それでも雑草を抑えきれない場合は除草剤で処理する。



培土が遅れ雑草が繁茂



雑草に負けたハトムギ

1)中耕培土による除草

・雑草を抑えるため、また、生育量を確保するために中耕除草を必ず行う。
・培土は播種後25日頃とその10日後頃に最低2回は実施する。(兼用管理機での培土はハトムギの草丈が80cmまで可能)
・播種時に、目標施肥量を施肥できなかった場合は、培土時に「尿素 10a当たり5～10kg/10a」を施用する。



中耕培土の様子

2)除草剤による除草(中耕培土で雑草を抑えきれない場合)

・バサグラン液剤 適用雑草:広葉雑草(イネ科雑草には効きません)
使用時期:雑草の3～6葉期(但し収穫45日前まで)
使用量:10a当り150mlを水100Lに希釈し散布 2回以内

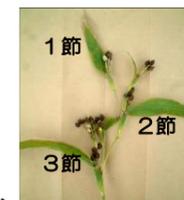
・プリグロックスL 適用雑草:一年生雑草
使用時期:雑草生育期(出穂前まで)(但し収穫60日前まで)
使用方法:畦間処理(ハトムギにかけてはいけない)
使用量:10a当り600～1000mlを水100Lに希釈し散布 2回以内

【⑨高温乾燥時の畦間かん水】

○高温乾燥で葉が萎れると生育不良になり、不稔粒が発生するため、土壌の乾燥に応じて畦間かん水する。

【⑩収穫】

○収穫適期は播種後120～130日 で、上位3節の子実の90%が茶褐色になった頃。



○大豆コンバインは、汎用コンバインで収穫する。

○大豆コンバインは馬力が弱いので 1条ずつ刈る。

【⑪収穫後の圃場の管理】

○アワノメイガは、刈株の茎の中で幼虫が越冬します。越冬する幼虫を防除するため、茎が柔らかい刈株をフレールモアで細断し、耕起する。

【⑫次年度の作付け準備】

○次年度に、ハトムギの作付けを予定している圃場では、額縁排水溝を設置する。